

J-クレジット制度について

2024年1月

PwC Japan有限責任監査法人



J-クレジット制度とは

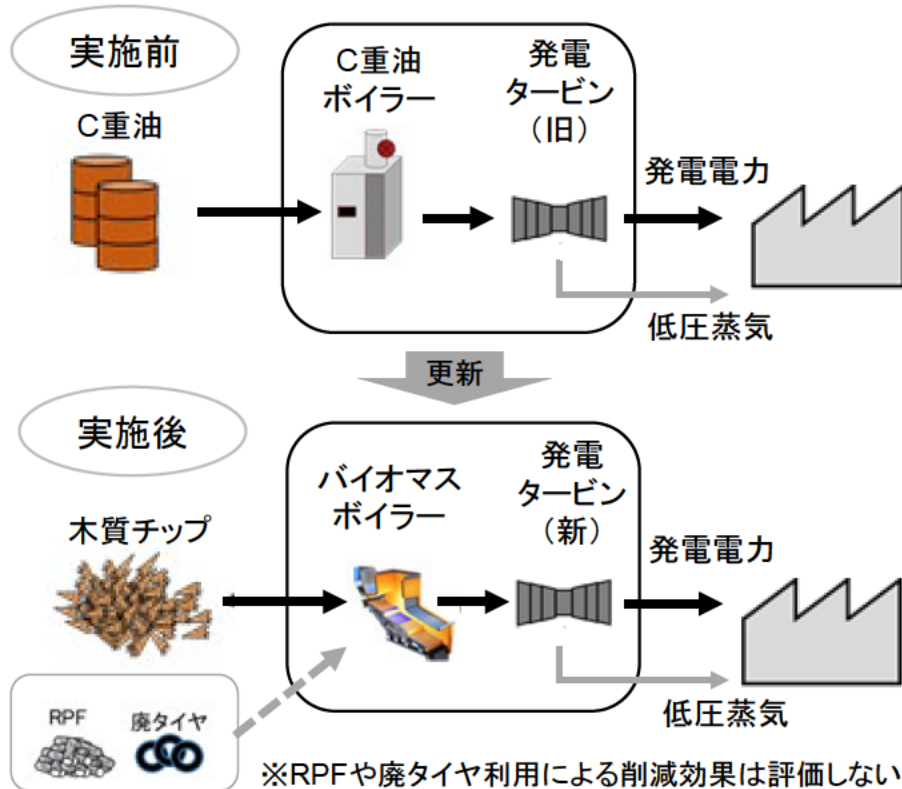
J-クレジット制度とは、省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるCO2等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO2等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度です。本制度により創出されたクレジットは、経団連カーボンニュートラル行動計画の目標達成やカーボン・オフセットなど、様々な用途に活用できます。



J-クレジット創出事例 (製紙工場における木質バイオマスボイラー利用による電力の代替)

1. 事業内容

自家発電設備および製造工程で使用する蒸気供給用のボイラー燃料としてC重油を使用していましたが、バイオマスボイラー・発電設備へ更新し、バイオマス等を使用することによって、温室効果ガスの排出量を大幅に削減しました。



年間約48,000 t-CO2排出削減を計画

2. 事業者からのコメント



未利用資源の有効利用や地球温暖化対策の一環として取り組んだPJをメディアで取り上げていただくとともに、国の制度としても評価していただけることを知ることが出来て良かった。投資回収の早期化に貢献してくれることを期待している。

愛媛製紙株式会社
熊本さん

3. 導入設備等



愛媛製紙株式会社



バイオマスボイラー・発電

4. 事業者概要

排出削減事業者：愛媛製紙株式会社
所在地：愛媛県四国中央市村松町370番地
URL:<https://www.ehimepaper.co.jp/>

J-クレジット創出事例 (レンタカー事業における電気自動車の新規導入)

1. 事業内容

顧客が利用する車両に電気自動車を100台導入。導入した電気自動車の走行に伴って排出される温室効果ガスは、同クラスのガソリン車の3割程度。車両走行する際に排出される温室効果ガス削減することで、環境に配慮した観光を実現。

導入前

ガソリン車 約900台 ハイブリット車 120台



156.5t-CO₂/年

電気自動車100台の新規導入

導入後

ガソリン車 約800台 ハイブリット車 120台 電気自動車 100台



47.1t-CO₂/年

電気自動車 (日産リーフ)

資金



国内クレジット

【共同実施者】

カーボンフリーコンサルティング株式会社

2. 事業者からのコメント



ニッポンレンタカー
沖縄株式会社
上原真樹さん

事業で得たクレジットは県内のカーボン・オフセット等に活用してもらうことで、環境保全の取り組みを推進したい。電気自動車の導入とあいまって、国内クレジットを活用することで、環境大臣指定の「エコ・ファースト企業」の指定を受け、更にレベルアップした環境に優しい企業へと考えている。また、電気自動車のレンタカー利用は、家族連れの利用を通して、将来を担う子供たちに環境問題について考える機会としても役立っている。

3. 導入設備等



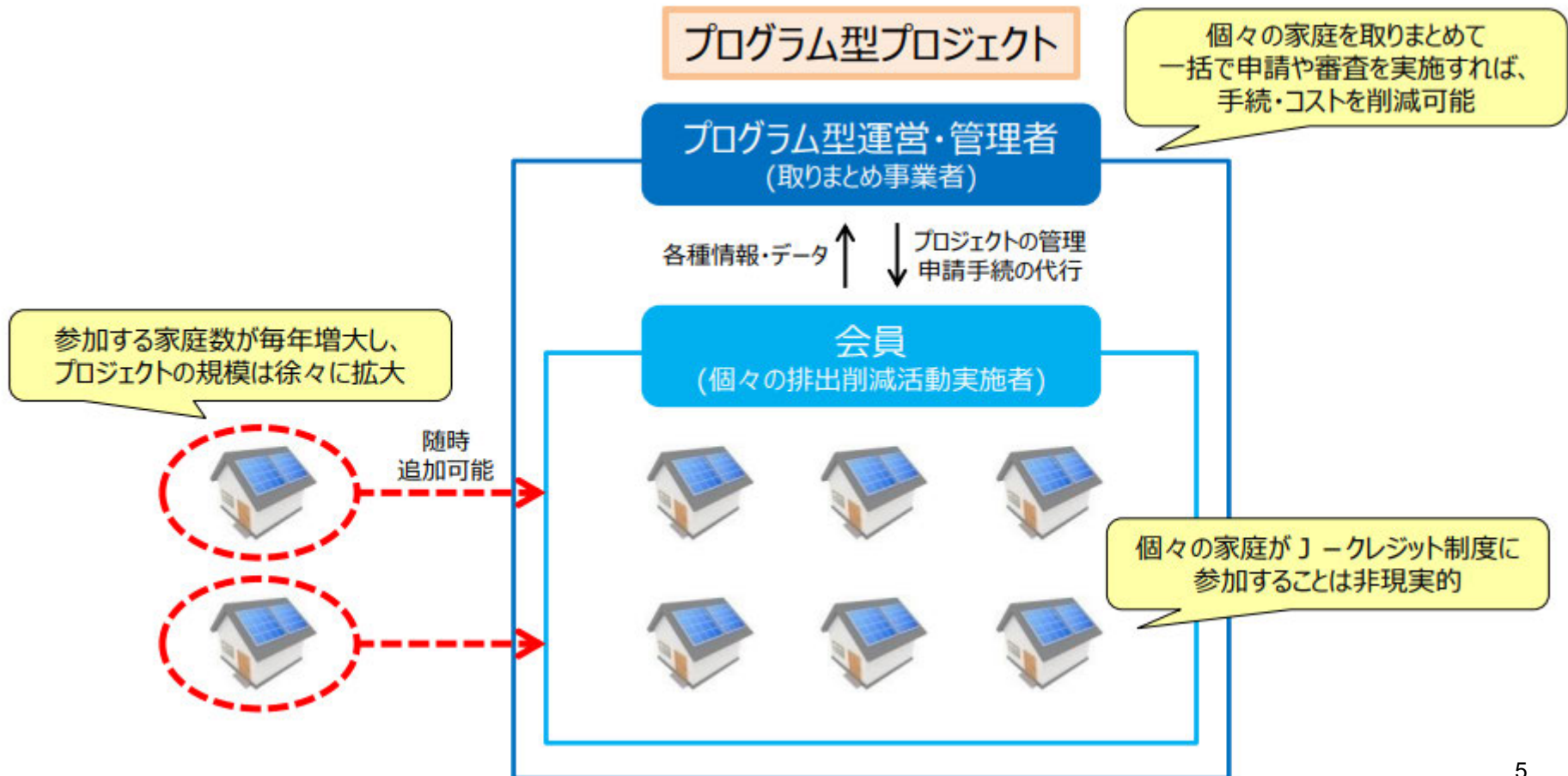
4. 事業者概要

排出削減事業者：ニッポンレンタカー沖縄株式会社
所在地：沖縄県那覇市西1丁目19-1
URL：<http://www.nr-okinawa.co.jp/>

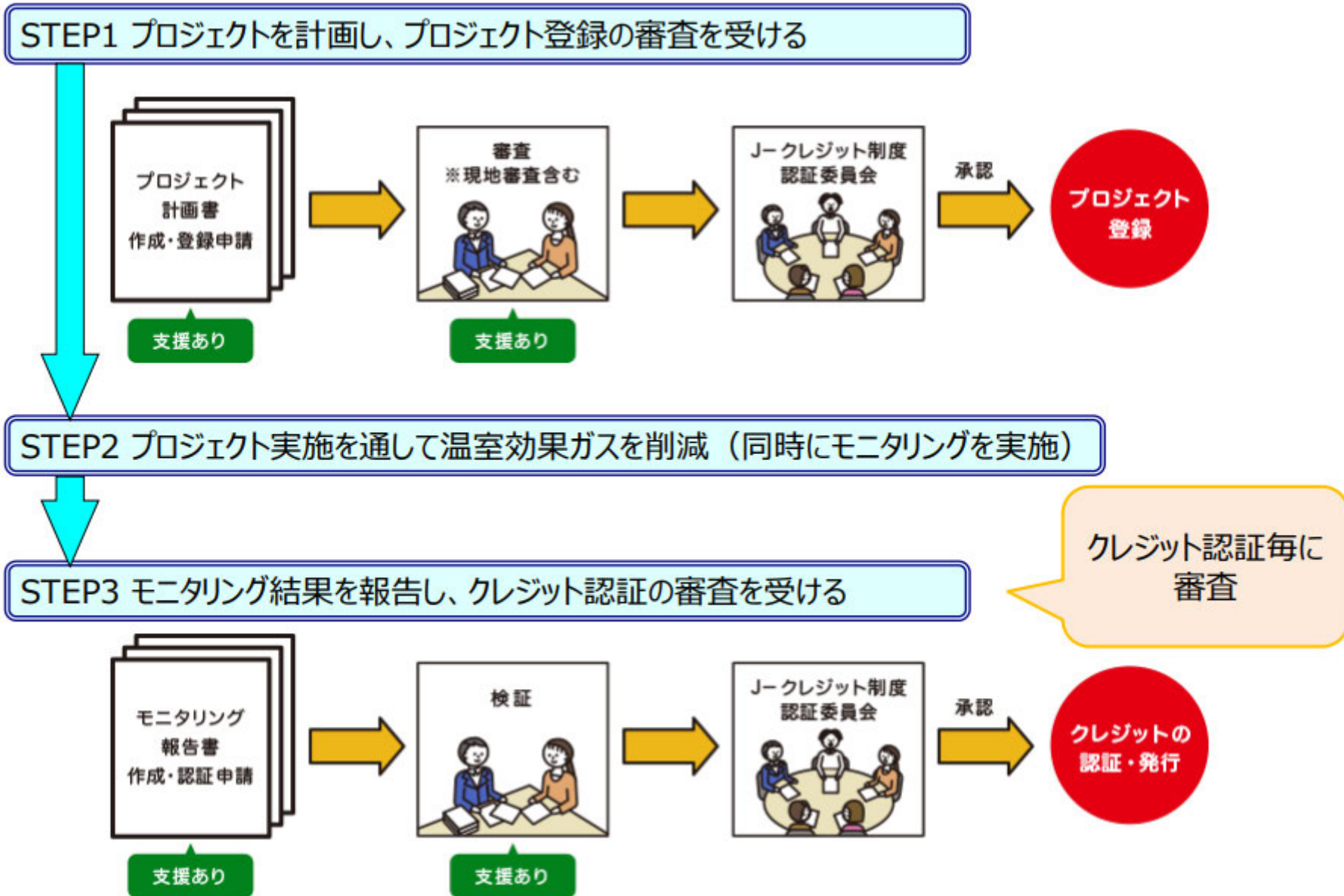
J-クレジット制度（プログラム型）

家庭用の太陽光発電設備等、小規模な削減活動を取りまとめて一括でJ-クレジットを創出することも可能。そのような形態を「プログラム型プロジェクト」という。メリットとしては以下があげられる。

- ① 単独では非現実的な小規模な削減活動からJ-クレジットを創出することが可能。
- ② 削減活動を随時追加することで、プロジェクトの規模を拡大することが可能。
- ③ 登録や審査等にかかる手続・コストを削減することが可能。



J-クレジット制度への登録、認証の大まかな流れ



プロジェクト実施者

プロジェクト登録において、設備の稼働時期や投資回収年数等、いくつかの要件がある。

登録要件

- ① 日本国内で実施されること。
- ② プロジェクト登録を申請する日の2年前以降に稼働した設備が対象であること。
- ③ クレジットの認証対象期間は、プロジェクト登録申請日又はモニタリングが可能になった日のいずれか遅い日から8年間（森林経営活動プロジェクトは登録申請した年度の開始日から最大16年間）。ベースラインを再設定しても削減が見込まれる場合最大16年まで延長が可能（過去分は除くことに注意）。
- ④ 追加性を有すること。
※原則として、設備の投資回収年数が3年以上かどうかで追加性の有無を判断。
※その他、方法論によっては以下のような追加性の判断基準が示されている。
 - ・ プロジェクト実施後にランニングコストが上昇するかどうか。
 - ・ 一般慣行障壁
 - ・ 追加性の有無の判断を不要とする（ポジティブリスト）もの。
- ⑤ 本制度で定められた方法論に基づいて実施されること。
- ⑥ 審査機関による第三者認証を受けていること。
- ⑦ 森林プロジェクトの場合のみ、プロジェクト終了後も継続的（10年間）に適切な森林管理を実施、報告すること（永続性担保措置）。
- ⑧ その他本制度の定める事項に合致していること。

方法論

排出削減・吸収に資する技術ごとに、適用範囲、排出削減・吸収量の算定方法及びモニタリング方法を規定したもの。

方法論の分類

- エネルギー分野 (EN)
 - ✓省エネルギー等分野 (EN-S)
化石燃料の使用を抑えること等によりエネルギー由来CO₂を削減する分野。
 - ✓再生可能エネルギー分野 (EN-R)
化石燃料を再生可能エネルギーに代替することによりエネルギー由来CO₂を削減する分野。
- 工業プロセス分野 (IN)
工業プロセスにおける化学的又は物理的変化により排出される温室効果ガスを削減する分野。
- 農業分野 (AG)
農業分野において排出される家畜由来又は農地由来の温室効果ガスを削減する分野。
- 廃棄物分野 (WA)
廃棄物の処理に伴い排出される温室効果ガスを削減する分野。
- 森林分野 (FO)
森林施業の実施により温室効果ガスを吸収する分野。

基本的な考え方

ベースライン排出量とプロジェクト実施後排出量との差が排出削減量となる



方法論一覧 ①

- 方法論とは、温室効果ガスを削減する技術や方法ごとに排出削減算定方法やモニタリング方法等を規定したもので、現在、69の方法論を承認（2023年3月時点）。
（内訳：省エネルギー等42、再生可能エネルギー11、工業プロセス5、農業5、廃棄物3、森林3）

分類	方法論名称
省エネルギー等	ボイラーの導入
	ヒートポンプの導入
	空調設備の導入
	ポンプ・ファン類への間欠運転制御、インバーター制御又は台数制御の導入
	照明設備の導入
	コージェネレーションの導入
	変圧器の更新
	外部の効率のよい熱源設備を有する事業者からの熱供給への切替え
	未利用廃熱の発電利用
	未利用廃熱の熱源利用
	電気自動車又はプラグインハイブリッド自動車の導入
	ITを活用したプロパンガスの配送効率化
	ITを活用した検針活動の削減
	自動販売機の導入
	冷凍・冷蔵設備の導入
	ロールアイロナーの更新
	LNG燃料船・電動式船舶の導入
	廃棄物由来燃料による化石燃料又は系統電力の代替
	ポンプ・ファン類の更新
	電動式建設機械・産業車両への更新

方法論一覧 ②

分類	方法論名称
省エネルギー等	生産設備（工作機械、プレス機械、射出成型機、ダイカストマシン、工業炉又は乾燥設備）の更新 ドライブを支援するデジタルタコグラフ等装置の導入及び利用
	テレビジョン受信機の更新
	自家用発電機の導入
	屋上緑化による空調に用いるエネルギー消費削減
	ハイブリッド式建設機械・産業車両への更新
	天然ガス自動車の導入
	印刷機の更新
	サーバー設備の更新
	節水型水まわり住宅設備の導入
	外部データセンターへのサーバー設備移設による空調設備の効率化
	エコドライブ支援機能を有するカーナビゲーションシステムの導入及び利用
	海上コンテナの陸上輸送の効率化
	下水汚泥脱水機の更新による汚泥処理プロセスに用いる化石燃料消費削減
	共同配送への変更
	冷媒処理施設の導入
	省エネルギー住宅の新築又は省エネルギー住宅への改修
	ポルトランドセメント配合量の少ないコンクリートの使用
	園芸用施設における炭酸ガス施用システムの導入
エネルギーマネジメントシステムの導入	
非再生可能エネルギー由来水素・アンモニア燃料による化石燃料等又は系統電力の代替 水素燃料電池車の導入（非再生可能エネルギー由来水素利用）	

方法論一覧 ③

分類	方法論名称
再生可能 エネルギー	バイオマス固形燃料(木質バイオマス)による化石燃料又は系統電力の代替
	太陽光発電設備の導入
	再生可能エネルギー熱を利用する熱源設備の導入
	バイオ液体燃料(BDF・バイオエタノール・バイオオイル)による化石燃料又は系統電力の代替
	バイオマス固形燃料(廃棄物由来バイオマス)による化石燃料又は系統電力の代替
	水力発電設備の導入
	バイオガス(嫌気性発酵によるメタンガス)による化石燃料又は系統電力の代替
	風力発電設備の導入
	再生可能エネルギー熱を利用する発電設備の導入
	再生可能エネルギー由来水素・アンモニア燃料による化石燃料等又は系統電力の代替
工業プロセス	マグネシウム溶解鑄造用カバーガスの変更
	麻酔用N2Oガス回収・分解システムの導入
	液晶TFTアレイ工程におけるSF6からCOF2への使用ガス代替
	温室効果ガス不使用絶縁開閉装置等の導入
	機器のメンテナンス等で使用されるダストブロー缶製品の温室効果ガス削減

※J-クレジット制度HPより

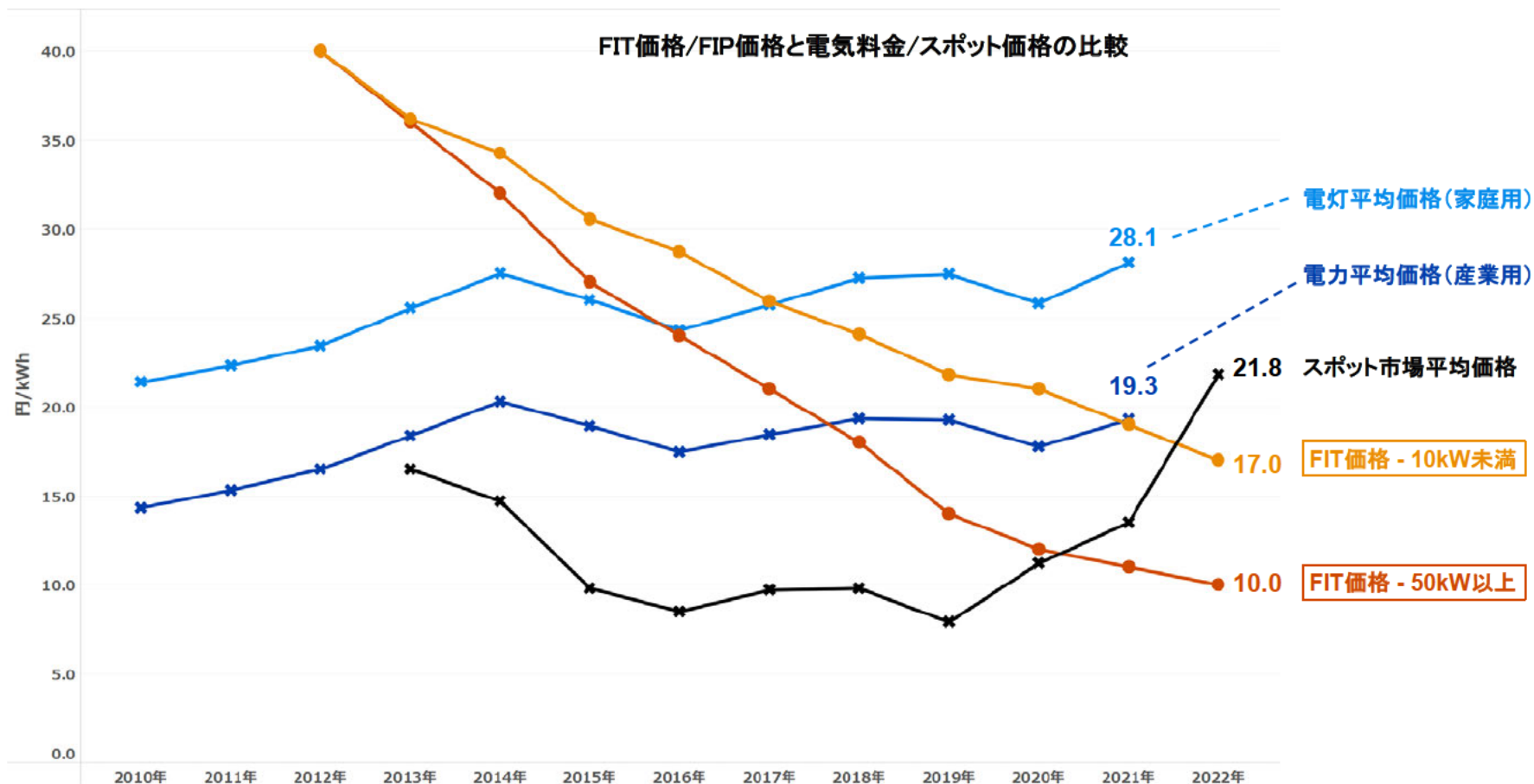
方法論一覧 ④

分類	方法論名称
農業	牛・豚・ブロイラーへのアミノ酸バランス改善飼料の給餌
	家畜排せつ物管理方法の変更
	茶園土壌への硝化抑制剤入り化学肥料又は石灰窒素を含む複合肥料の施肥
	バイオ炭の農地施用
廃棄物	水稲栽培における中干し期間の延長
	微生物活性剤を利用した汚泥減容による、焼却処理に用いる化石燃料の削減
	食品廃棄物等の埋立から堆肥化への処分方法の変更
森林	バイオ潤滑油の使用
	森林経営活動
	植林活動
	再造林活動

※J-クレジット制度HPより

(参考) FIT価格等と電気料金等の比較

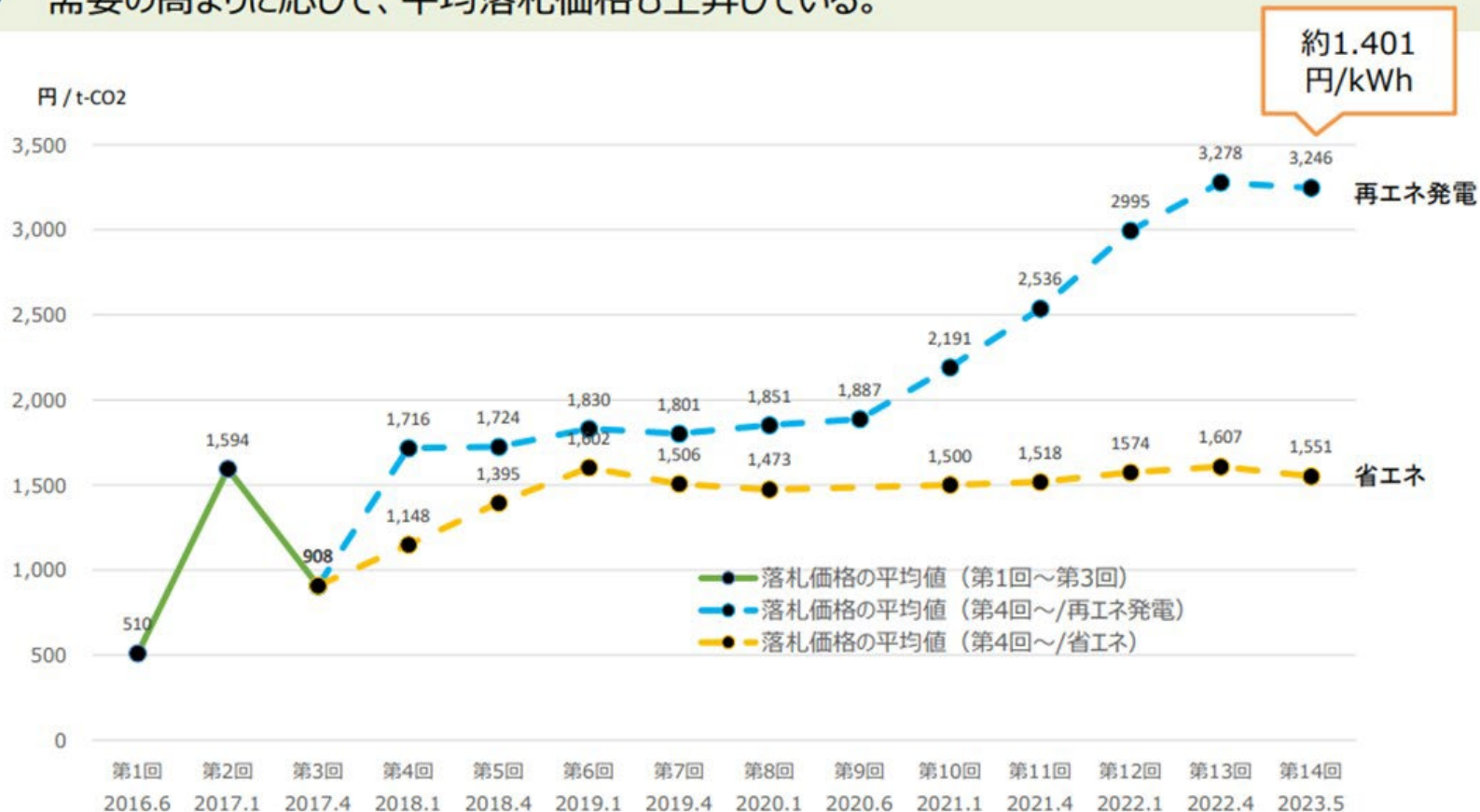
- 住宅用太陽光／事業用太陽光のFIT価格(FIP価格)は下落を続け、足元で高騰しているスポット市場価格や電力価格よりも下回っている。
- 既存電力に対して価格競争力を持つことで、さらなる再エネ普及加速が期待される。



※電気料金の平均単価については、消費税、再エネ賦課金を含む。
 ※2022年度のスポット市場平均価格は、2022年10月8日までの平均価格

(参考) J-クレジットの入札状況の推移 (平均落札価格)

- 需要の高まりに応じて、平均落札価格も上昇している。



※J-クレジット制度HP J-クレジット制度の統計資料より

カーボン・オフセット

カーボン・オフセットとは

日常生活や企業等の活動で、どんなに努力をしても発生してしまうCO₂（＝カーボン）を、森林による吸収や省エネ設備への更新による創出された他の場所の削減分で埋め合わせ（＝オフセット）する取組がカーボン・オフセットです。



【CO₂の発生】

- 製品販売・サービス提供
- イベント実施
- 事業活動 など



【CO₂の相殺】

- 省エネ実施
- 再生可能エネルギー導入
- 森林吸収 など

カーボン・オフセットを行うことで、環境への貢献をPRしたり、企業のCSR活動や製製品・サービスのブランディングに活用できます

カーボン・オフセットに用いることができるCO₂削減量（＝クレジット）を認証する制度として「J-クレジット制度」などがあります

カーボン・オフセット事例 (高知龍馬マラソン)

1. イベントの概要

高知龍馬マラソン2020の開催にあたり、参加者の移動に係るCO2排出量100tについてカーボン・オフセットを行うことにより、高知の豊かな自然に配慮した環境にやさしい大会を目指しています。

2. 開催日時

令和2年2月16日(日) 雨天決行 9:00スタート 16:00競技終了

制限時間：7時間

参加定員：10,000人

3. カーボン・オフセットの内容

高知龍馬マラソン2020の開催にあたり、参加者が居住地から開催地に移動する際に使用する主要交通手段から排出される約100t分のCO2についてカーボン・オフセットを行っています。

100t分のクレジットは、ニッポン高度紙工業株式会社様が社有林における森林保護活動により取得された高知県J-VERクレジットを提供していただいているものです。

高知龍馬マラソン2020



カーボン・オフセット事例 (ノベルティオフセット等)

1. クレジット活用内容

岩手県内の企業や自治体によって創出されたクレジットを購入し、自社で作成した印刷物等や協賛する県内の駅伝大会運営に伴うCO2をオフセットしました。

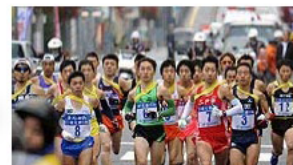
株式会社東北銀行

活用1：印刷物等オフセット(国内クレジット)



購入した
クレジットのうち
約15トン

活用2 駅伝オフセット (J-VER)



クレジット

資金

【クレジット創出者】岩手県内の企業・自治体
設備更新や間伐促進によるクレジット創出

2. 事業者のコメント

地域のCO2排出削減の取り組み推進および、環境保全の啓蒙活動を通じて地域社会への貢献につながった。

県民に親しまれている駅伝大会を通じ、カーボン・オフセットについて県内での意識向上の一助とすることができた。

3. PRポイント

県内の国内クレジットやJ-VERを購入することで、率先して制度の普及に貢献しています。
駅伝のオフセットは、「被災地産J-VER等を活用したカーボン・オフセット認証取得に係る事業者支援事業」として地方銀行では全国初の採択を受けました。

4. 事業者概要



プロジェクト事業者：株式会社東北銀行
所在地：岩手県盛岡市内丸3番1号
URL: <http://www.tohoku-bank.co.jp>

カーボン・オフセット事例 (愛顔 (えがお) つなぐえひめ国体・えひめ大会)

■ イベント概要

- ・ イベント実施期間：えひめ国体（平成29年9月30日～平成29年10月10日）、えひめ大会（平成29年10月28日～平成29年10月30日）
- ・ 愛顔（えがお）つなぐえひめ国体・えひめ大会を「環境に優しい大会」とするため、期間中の県内のバス輸送に係るCO₂排出量約100tを愛媛県産J-VERでカーボン・オフセット

■ 主催者・後援

- ・ 主催者：愛顔（えがお）つなぐえひめ国体・えひめ大会実行委員会

■ カーボン・オフセットの内容

- ・ えひめ国体・えひめ大会期間中の県内バス輸送に係るCO₂排出量約100tをカーボン・オフセット（バス1台当たりの排出量16.4kg×期間中必要台数6,264台＝102,729.6kg）



PR：J-クレジット制度ウェブサイト

J-クレジット制度のウェブサイトには、オフセット取組（イベント紹介等）を掲載することができます。

The image shows two overlapping screenshots of the J-Credit website. The left screenshot displays a search results page for 'クレジット活用事例一覧' (Credit Usage Examples) with 1239 results. The right screenshot shows the 'イベント掲示板' (Event Bulletin Board) page, which lists events such as '木育キャラバン in 丸亀町 2018' and '第3回 山の日カーボン・オフセットキャンペーン'.



The image shows a detailed view of the event announcement page for '木育キャラバン in 丸亀町 2018'. It includes a banner with the event title and dates (8.18 Sat, 8.19 Sun), a section for '1. イベントの概要' (Event Overview) describing the use of open spaces and CO2 reduction, and a diagram titled '【無効化】5t-CO2' (Nullification 5t-CO2) showing how staff participation and local credit offset emissions. The page also includes contact information for the organizer and PwC.

1. イベントの概要

本イベントは、高松丸亀町商店街のオープンスペースを活用することで、照明や空調をほとんど使用しないエコなイベントである。加えて、スタッフや来場者の移動等で排出されるCO2をJ-クレジット

【無効化】5t-CO2

カーボン・オフセット

来場者およびスタッフの参加、イベント開催に必要な展示物の運搬、来場者の生活から排出される1日のCO₂排出量

高松市中で創出されたJ-クレジット

4. 情報発信

以下のリンクでパンフレットを公開しています。
パンフレットの公開

5. お問い合わせ先

主催者	高松丸亀町商店街振興組合 ・詳しくはこちら
カーボンオフセット実施支援 (四国経済産業局委託先)	PwCあらた有責任監査法人 ☎03-6212-6800 ■ pwc.jp.sustainability@jp.pwc.com

※J-クレジット制度イベント掲示板 < <https://japancredit.go.jp/cp/> >

Jクレジットに関するご質問・ご相談があれば、お気軽にご連絡ください。

令和5年度四国経済産業局委託先：PwC Japan有限責任監査法人
担当：石川・竹内
メールアドレス：jp_jcresupport@pwc.com

www.pwc.com/jp/sustainability

© 2024 PricewaterhouseCoopers Japan LLC. All rights reserved.

PwC refers to the PwC network member firms and/or their specified subsidiaries in Japan, and may sometimes refer to the PwC network. Each of such firms and subsidiaries is a separate legal entity. Please see www.pwc.com/structure for further details.